

2009年6月23日

株式会社 I&S BBDO(本社:東京都中央区、代表取締役社長:野副正行)プランニンググループ  
インフォメーションリソースセンターは、各種調査の一環として2009年5月末~6月初め、  
最近のトピックスとなる以下の五つのテーマについて調査を実施し、以下の通り結果をまとめました。

## テーマ

1. エコポイント制度
2. 新型インフルエンザ
3. 休日高速道路 1000円乗り放題
4. 定額給付金
5. 夏のボーナス

## ■調査概要

■調査対象:	20~69歳男女個人 計600サンプル
■調査方法:	インターネット調査
■調査地域:	首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)
■調査時期:	2009年5月29日(金)~6月1日(月)

- 調査結果のより詳しい内容についてのお問い合わせ  
プランニンググループ インフォメーションリソースセンター  
小坂・対馬 Tel.03-6221-8606
- 広報的なお問い合わせ  
アドミニストレイティブサービスグループ 広報  
宮下 Tel.03-6221-8523

## ■エコポイント制度

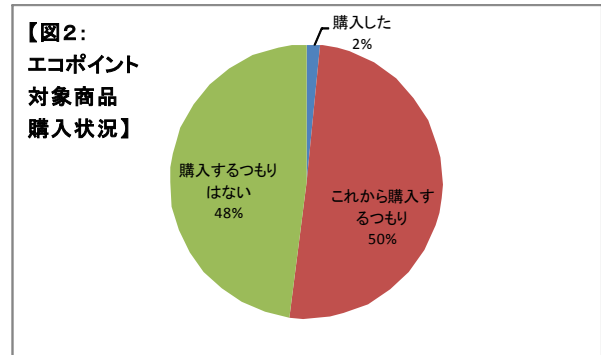
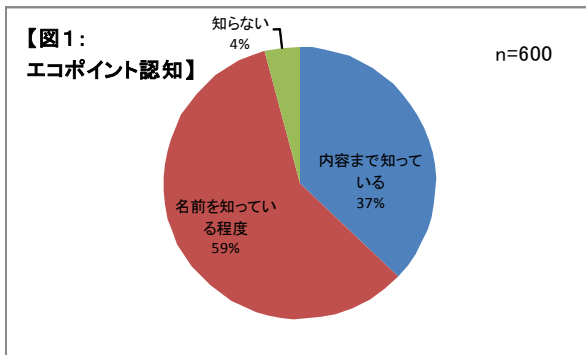
### 認知は96%。エコポイント対象商品の購入意向は半数。 コストメリットを感じられている反面、見切り発車に購入を見送る人も。

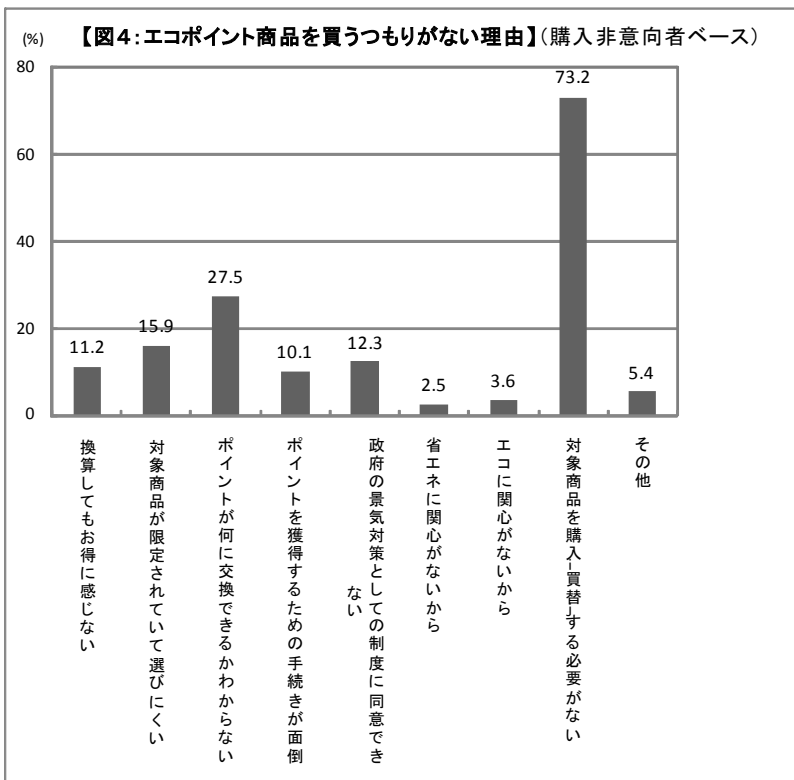
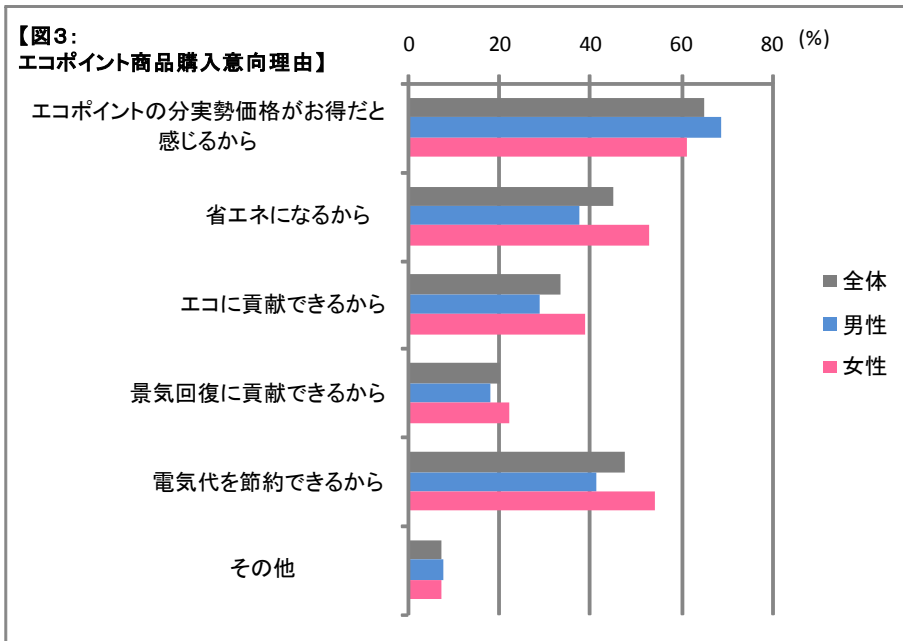
エコポイント制度導入から約2週間を経過した調査時点での認知者（「内容まで知っている」+「名前を知っている程度」の合計）は導入前後の過熱気味の報道を受けてか96%とほぼ認知は行きわたった。【図1】導入から期間が短かったこともあり「購入経験者」はわずかに1.6%（9名）だった。

制度対象商品を「これから購入するつもり」は50%【図2】その理由として3人に2人が「エコポイントの分、実勢価格がお得だと感じるから」というコストメリットを挙げた。コストメリットを挙げるのは男性が多く、「省エネ」「エコ」など環境配慮の意識は女性が男性を約10ポイント上回った。【図3】

一方、「購入するつもりはない」の理由は、「対象商品を購入する必要がある（買い替えの時期ではない）から」が最多。対象商品カテゴリーが限られているためと考えられる。次いで「エコポイントがなにに交換できるかわからない」が28%。【図4】買い替えの必要がない人を除くと、買い替え需要がある人のほぼ全員がこれを理由として挙げた計算になる。

見切り発車的にスタートしたエコポイント制度だが、政府は7月1日から交換申請を受け付けると発表した。交換商品も6月中旬から順次発表される予定で、この制度の完全始動により消費者がどう動くかが注目される。





## ■新型インフルエンザ

### 予防も情報収集もしないのに「冷静に対応できる」自信のある男性、 情報収集や予防に積極的だが、それでも心配な女性。

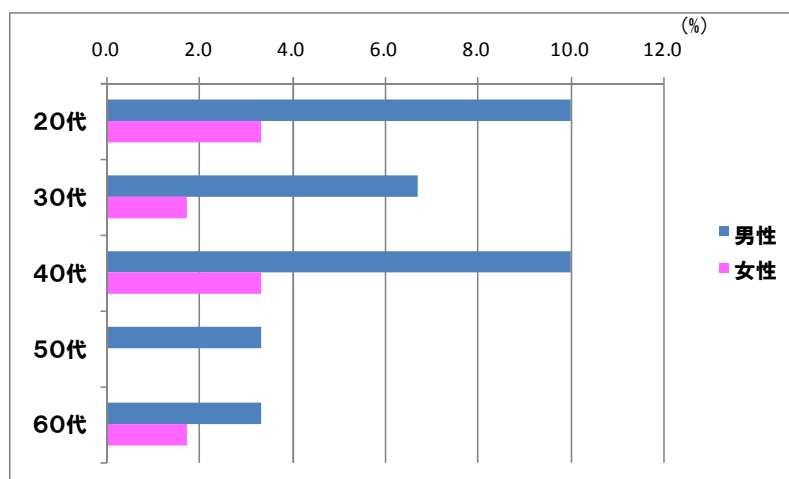
「新型インフルエンザにかかったかも」と思った人は全体では4.3%であったが、全般に女性より男性の方が高く、特に男性20代と男性40代は10%と他の年代より高かった。【図1】

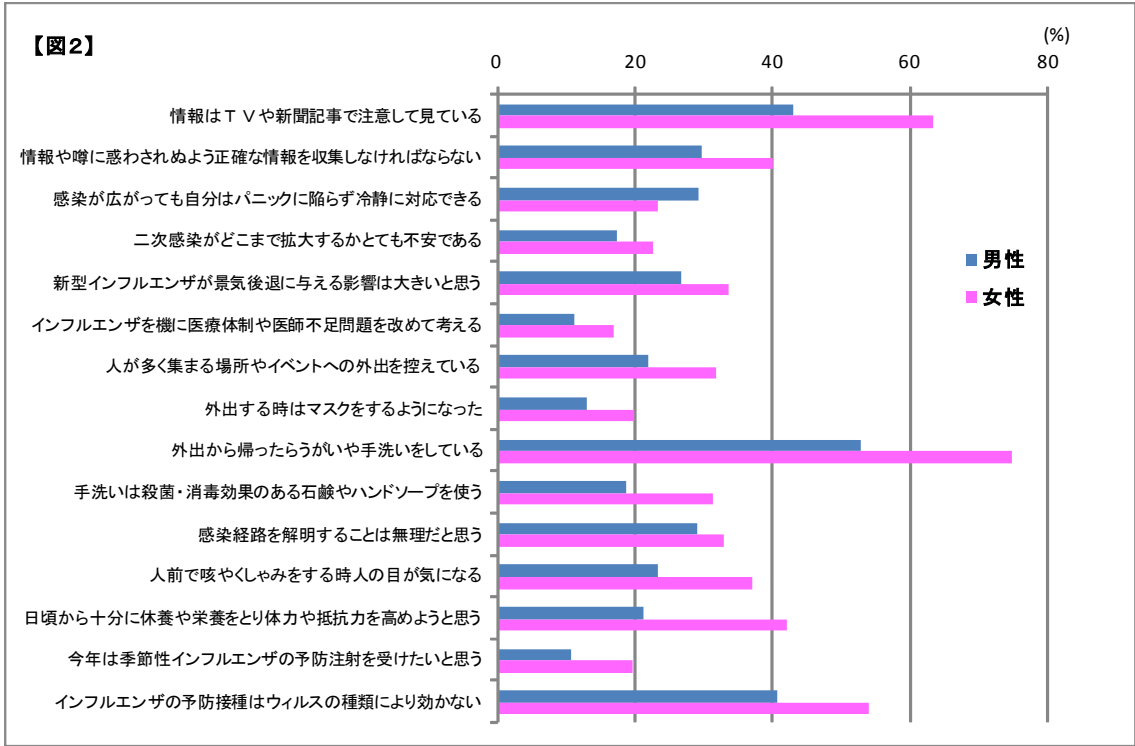
男性の方が女性に比べ、仕事などで外出しなければならない機会が多いからとも考えられるが、その一方で情報収集や予防に関する意識や行動は女性に比べ全般に低いことがわかった。男性が女性より高かったのは「感染が広がっても、自分はパニックに陥らず冷静に対応できる」。そう言っている割には、「予防接種はウイルスの種類によっては効かない」ということを知らない人も多い。女性はうがいや手洗い、外出を控えるなど感染を意識して行動している様子がみられる【図2】この傾向は、特に30・40代のポイントが高い。

ちなみに、マスクの備蓄率は全体で37%。これも男女差が大きく、男性は女性より20%近く低かった。

WHO(世界保健機関)は6月12日、警戒度を「フェーズ6:世界的大流行(パンデミック)」に引き上げを発表。日本ではこれから夏に向かっていったん落ち着くかとの予測も出ていたが、まだ感染は続いており、まだまだ予断は許されない状況である(特に男性諸氏、自覚と予防行動を！)

【図1】「熱が出たので自分はインフルエンザにかかったかも、と思ったことがある」人の





## ■定額給付金

### 定額給付金、4人に1人が「すでに使った」。 日々の生活費に「いつの間にか消えた」が多い一方、 今まで躊躇していた「お楽しみ」消費の後押しにも。

定額給付金が“給付済み”の人は、調査対象者全体の54%にのぼる。そのうち約半数は「全額または一部使った」と回答した。【図1】

使い道を聞いたところ、「日常の生活費」が最多。続いて「外食」「公共料金・税金の支払い」「旅行」「AV・家電製品」「ファッション」と続いた。給付金制度導入が決まった当初『消費に回らず、貯蓄に回るのは』との懸念もあったが、結果としては制度の狙い通り、多くが消費に回っているようだ。【図2】

どんな風に使ったかを自由回答形式で聞いたところ、「普段の生活に紛れ込んで具体的に何に使ったかよくわからない」(39 歳男性)、「いつの間にかなくなっていた」(34 歳女性)、「何の意味もなく普通に消費」(54 歳男性)、「毎日の夕食の材料費に消えた」(61 歳女性)、など、日々の生活に取り紛れ、“使った!”という実感がないうまま終わったという意見が多数みられた。

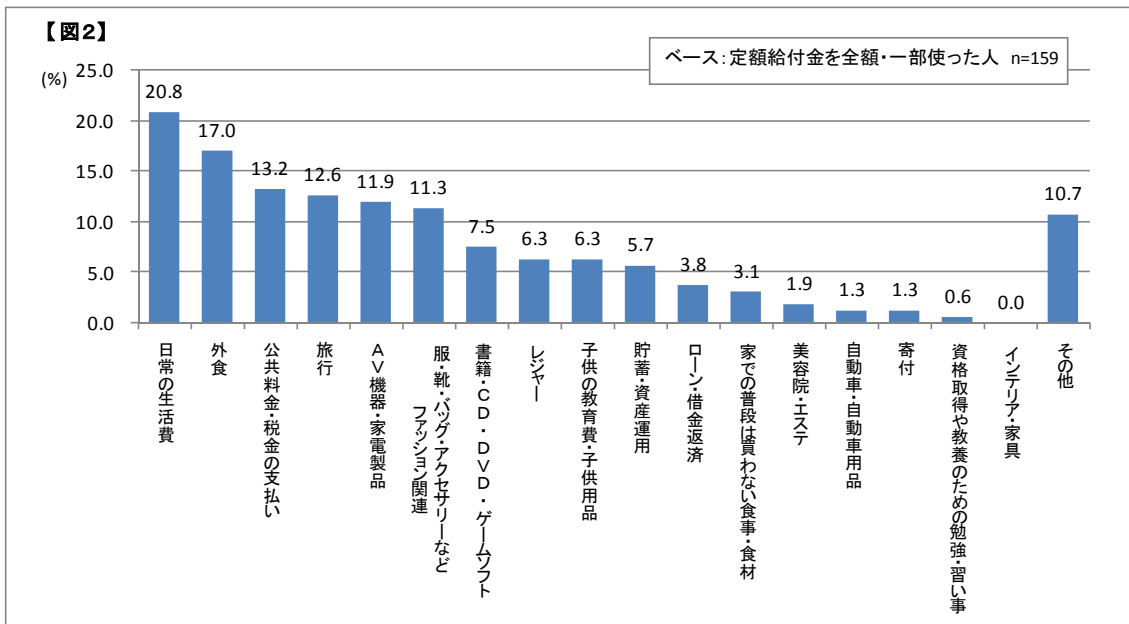
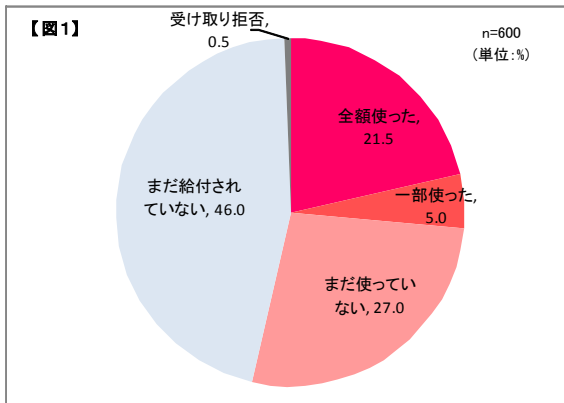
また、自動車税や固定資産税などの納付時期と重なったこともあり、「すべて税金関係で消えた」(49 歳男性)人もチラホラ。運の悪いことに「ちょうどスピード違反でつかまって、罰金 25000 円」(42 歳女性)という人も。

一方、“使った!”との実感が伝わるエピソードとして、以下抜粋。

- ・「アンバサダーホテル宿泊でディズニーランドに行った」(29 歳女性)
- ・「10年ぶりにメガネを買い替えた」(36 歳男性)
- ・「以前から自転車が欲しかったので、給付金の半額程を購入資金に」(42 歳男性)
- ・「ずっと迷っていたヘアアイロンと調理器具。足して 12000 円ぴったり。買えて言うことなんだなと思って思い切って買いました」(35 歳女性)
- ・「せっかくなので普段行きそうもないレストランに家族で行きました」(34 歳男性)
- ・「電子レンジが壊れたので、この機会に性能の良いオーブンレンジに変えてしまおうと思った。給付金とうまくタイミングが合い超うれしかった!」(27 歳男性)
- ・「たまたま気にいる洋服をみつけた。衝動買いではなく一晩悩んで、給付金が入ったから買おう!と。入ってなかったらもっと悩んで結局買わなかったかも」(26 歳女性)
- ・「夫婦で 32000 円を足して、ランカウイ島でゆっくりしてきました」(65 歳女性)

普段の収入では我慢していた好きなこと、欲しかったものに使った様子が多々みられた。

額が少ない、中途半端、など否定的な意見も若干みられたものの、「もともとないお金と考えると、有意義に利用できた」(39 歳女性)、「どうせならパーっと使おうと高級寿司店へ。いろいろと評判の悪かった定額給付金でしたが、個人的にはこのような“ガス抜き”のためにお金がもらえるのは良いと思います」(37 歳男性)など、“臨時収入でちょっとした楽しみ”を味わっている人も多いといえそうだ。



## ■休日高速道路 1000 円乗り放題

**ドライバーの3人に2人が ETC 利用者。**  
**そのうちの1割は今年3月以降に取り付け。**  
**休日高速料金 1000 円を利用した人は4割。**  
**渋滞によって上下する「1000 円の価値」**

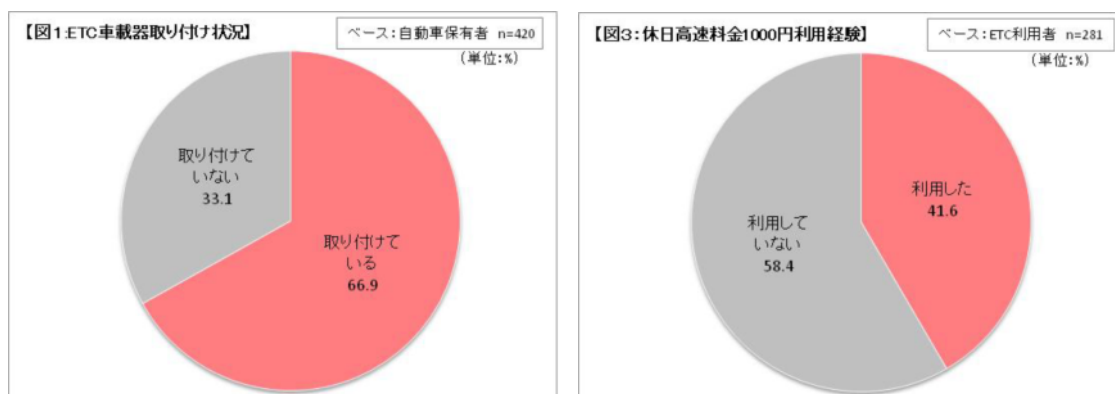
調査対象者の7割が自動車を保有。そのうち ETC 車載器を取り付けている人は 66.9%。自動車を持っている人の3人に2人が ETC 利用者という計算になる。【図1】

ETC 車載器の取り付け時期を聞いたところ、2008 年までは年間に14～15%ずつであったのに対し、2009 年は3月以降～調査までの約3ヶ月間で約1割。ETC 車載器取り付けのための補助金支給と休日高速料金上限 1000 円の制度が ETC 普及に大きく寄与していると考えられる。【図2】

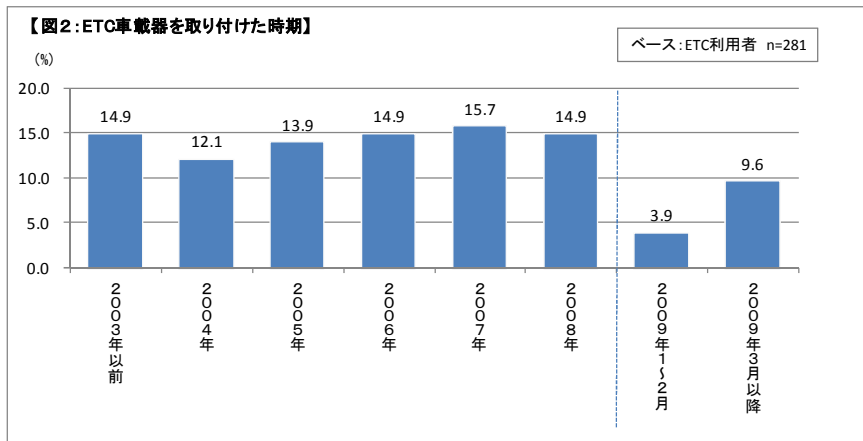
ETC 利用者のうち、休日高速料金上限 1000 円を利用した人は4割。【図3】

自由回答にて利用時の様子を聞いたところ、GW に利用した人が多くみられ、渋滞にかなりお疲れの様子の人も。渋滞に巻き込まれた人にとっては 1000 円の価値が「疲労と相殺」(39 歳男性)される一方、渋滞に合わずスムーズに行けた人にとっては、「安く済み、大満足」(28 歳女性)。

また、すべての高速道路において 1000 円になると誤解していた人も少なくなく、インフォメーション不足の感は否めない。「1000 円」というインパクトがひとり歩きしている状況であり、夏休みを前に混乱を避けるためにも、わかりやすい告知の徹底が必要と思われる。







【自由回答より抜粋】

- ・3月末か4月初め、行き東名大井松田-清水、帰りは吉田-大井松田で、どちらも1000円でした。日帰り、三保の松原で遊んだり、美味しい重をいただいたりと、楽しいドライブでした。帰りは遅めになったからか、混んでいませんでした。(40歳女性)
- ・GWに南関IC→北九州空港ICまでの往復 3250円\*2が1000円\*2 いつもなら、往復でガソリン代を入れて1万円かかるところが5000円程度になったので、とても得をした感じがした。(31歳男性)
- ・ゴールデン期間中に東京～福岡への帰省で2000円以上かかりました。通常であれば21000円なのでかなり助かりました。ただ、吹田ISでは20キロ渋滞で5時間はまり、並行している国道のほうが早かった。事故もおおかった。若者や大家族には助かると思います。(27歳男性)
- ・名古屋から厚木まで。安くてよかった。渋滞はまったくなし。平日まで拡大されるとうれしいな。(62歳男性)
- ・所沢から伊北まで、実家に帰るのに利用。普段なら途中で乗るので。楽に帰れた。夜中に走ったので、渋滞もなかった(26歳女性)
- ・今年のゴールデンウィークに利用したが入り口も出口も信じられないほど込んだし、首都圏料金(?)とか言うものも徴収され思ったほど安くはならなかった。(60歳男性)
- ・GWに東北道を利用。青森の二つ手前の弘前で出たが料金は1500円と表示されたのは理由が分からない。それでも安いことには変わらないが...(39歳男性)
- ・高速道路が1000円になって普段車に乗らないような人が高速道路を使用することによって、無意味な事故や渋滞が増え、今まで同様に高速道路を使用しているものにとっては、安くなるのはうれしいが困る面も増えた(46歳女性)
- ・4月下旬、東北方面へ。通常2時間で行ける区間を3時間弱かかった。道中は事故や取締りも多く見られ、「ドライブの楽しさ、快適性」からすればレベルが低くなると思う。また、土日に限って休日となる限られた業種の間だけが金銭的に大きくトクをする方法は不公平だと思う。ETCで管理していることを生かし、日時関わらず一定量の距離以上に適応する割引幅を現状よりも大きくしたり、1000円ではなく2～3000円で、もっとドライブの快適性を確保できるシステムに変えた方が利用しやすい。(34歳女性)
- ・千葉から関越自動車道を通って新潟に行ったが、外環で割引、北陸自動車道でも割引はあったものの、総額は1,850円で1,000円では収まらなかった。全部で1,000円だと思っていたので少々がっかりした。(48歳男性)

## ■2009年夏のボーナス

### 半数以上が昨年より減少。完全カット(0円)も1割以上。 金額が減ったボーナスが生活費の補填に消える厳しい家計の状況。

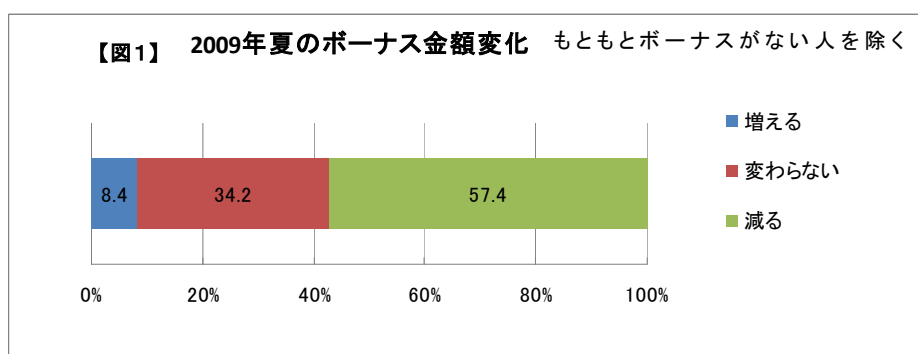
2009年夏のボーナスが支給されるはずだった人(もともとボーナスがない職業または無職を除いた人)に、昨年の夏と比べた支給額の増減を聞くと、「増える」8%、「変わらない」34%、「減る」57%、と半数以上が昨年より減少する、としている。【図1】

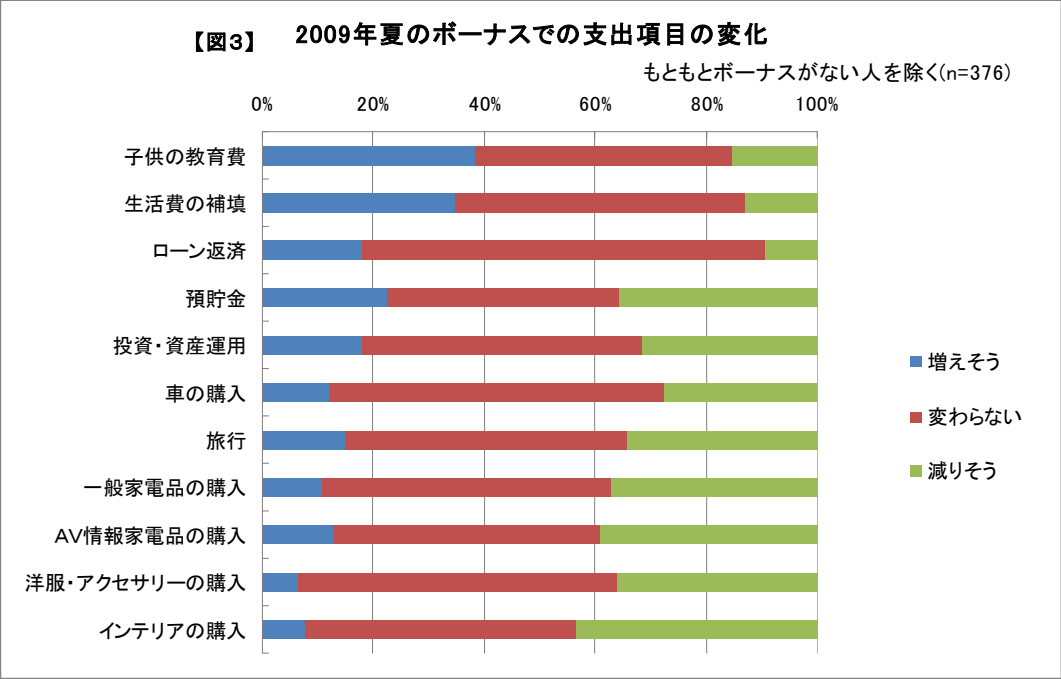
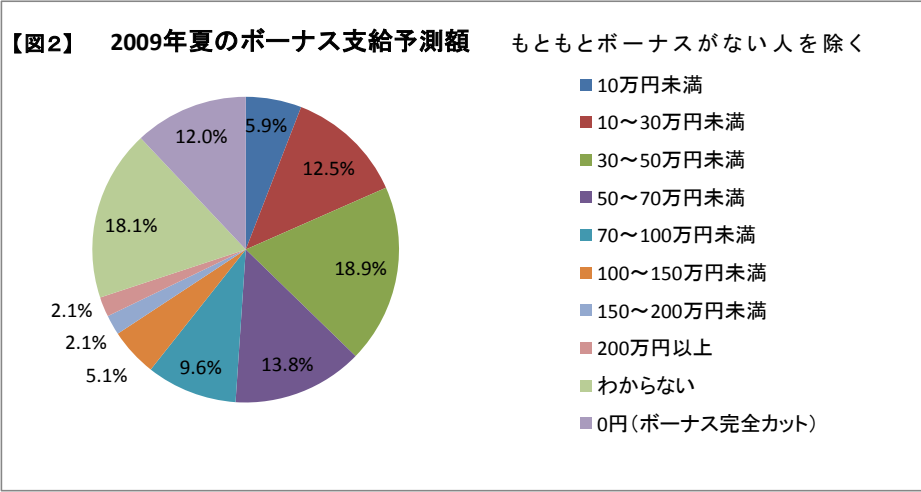
実際の支給予測額では、「30～50万円」が19%と最も多く、次いで「50～70万円」で14%。一方見通しのたたない「わからない」は18%、「0円(完全カット)」は12%と、合わせて3割を超えている。【図2】

そして、支出項目別に昨年の夏と増減を比較すると、「増えそう」が「減りそう」より上回った項目は「子供の教育費」「生活費の補填」「ローン返済」。「減りそう」が「増えそう」を上回った項目は「旅行」や「AV情報家電品の購入」等のレジャーや消費支出項目と、「預貯金」「投資・資産運用」となっている。【図3】

支給額が減少したボーナスを、毎月の給料分の補填として生活費やローン返済、子供の教育費に回す、厳しい家計の状況がうかがえる結果となった。

最近、日経平均株価が回復の兆しを見せてきているが、一般消費者のお財布事情に波及するまでにはまだまだ時間がかかりそうだ。





以上